

「大施餓鬼会」は知行院の年間行事で一番大きな法要で、毎年多くの檀信徒の皆様にご参列頂いております。本年も例年通り多くの皆様にご参列頂き、檀信徒各家のご先祖様、新盆を迎える諸精靈（令和元年五月十九日～令和二年五月十八日に亡くなられた方）を施餓鬼壇におまつりし、ご供養する予定でしたが、新型ウィルス禍の状況に配慮して、左記の通り変更をさせて頂きます。

「三密」を避けるため法要は住職と院内で執行し、塔婆は午前中に準備し、檀信徒の皆様には時間差でお参り頂こうと思つています。尚、新盆供養、お盆のお飾り、清掃料の受付は例年通りに行いますので当日、書院玄関までお越しください。

令和二年七月五日（日）

午前十時～ 大施餓鬼法要（住職のみで厳修）
午前十一時～ 塔婆受渡し
付届け、清掃料受付（書院玄関）

またお棚経回礼につきましては、各ご家庭を訪問する観点から本年度は中止とし、ご希望の方にはお盆期間中（七月十三日～十五日）墓前回向をさせて頂きます。墓参にお越しの際、玄関にてお申込みください。

令和二年七月五日（日）

午前十時～ 大施餓鬼法要（住職のみで厳修）
午前十一時～ 塔婆受渡し
付届け、清掃料受付（書院玄関）

またお棚経回礼につきましては、各ご家庭を訪問する観点から本年度は中止とし、ご希望の方にはお盆期間中（七月十三日～十五日）墓前回向をさせて頂きます。墓参にお越しの際、玄関にてお申込みください。

法灯の奉安期間には、伝教大師最澄が残されたご真筆による特別ご朱印の授与を行います。

尚、不滅の法灯はコロナ禍で、来

年

度に順延の可能

性があります。そ

の際は追ってご案内致します。

新型コロナ禍が落ち着くまで延期されるという方も多くおられます。
命日を過ぎてしまうことを気にされる方も多いかと思いますが、私見ですが住職としては、三回忌からは祥月命日を過ぎた日に行うべきとも思っていますので、気になる方は、状況が落ち着いてから行うということでもよろしいかと思います。

まだまだ先が見えない状況ですが、不明な点などございましたらお気軽にお問い合わせください。

尚、当分の間、控室においての茶菓の接待は中止させて頂いております。



新型コロナウイルスによる感染症対策が始まつてからよく耳にするようになった「三密」、ソーシャルディスタンスという言葉。互いに手を伸ばして届く距離、凡そ二メートルだそうですが、仏教説話にも他人との距離感にまつわる話があります。昔ある男が閻魔様に地獄と極楽とは、どのようなところなのかを尋ねました。

すると閻魔様は男に、地獄と極楽の様子を見せてくれました。まず地獄に行くと、ちょうど昼食の時間でした。テーブルには御馳走が並んでいました。それなのに地獄の住人はみなガリガリに痩せこけています。よく見ると手には三尺三寸（約一メートル）もある長い箸が握られていました。人々はその長い箸で御馳走を食べようとするのですが、あまりにも長いのでどうしても自分の口に入れることができません。イライラして怒りだす者や、隣の人が箸でつまんだ料理を奪いあう者までいる始末です。

次に極楽に向かうと、こちらもやはり昼食の時間でした。地獄と同様住人の手には三尺三寸の箸が握られていました。しかし極楽の人々は、穏やかな顔をして楽しそうに御馳走を食べていました。よく見ると長い箸で御馳走をはさむと、「どうぞ」と言つて自分の向こうの人に食べさせました。にっこりほほ笑む相手は「ありがとう、今度はお返ししますよ、何が好きですか」と食べさせあつていたのです。

同じ御馳走を前にしながら、一方は我先にと争い傷付けあたり、もう片方は相手を思いやり、相手から思いやられ感謝しながら御馳走を楽しんでいたのです。

どちらが幸せかということは明らかのことですよね。新型コロナ禍で世の中が殺伐として買占めなど、「我先に」という事態が連日報道され、多くの方が心を痛めているのではないでしようか。こういう非常時だからこそ、「人間としての器」のようなものが試されている気がします。

極楽の住人のように、お互いを思い合つてこの危機的状況を乗り越えていきましょう。

ごあいさつ 知行院住職 坂本觀泰

お寺のこと、仏教のことで、知っているようでもよく解らないことを、ご住職にインタビューして教えていただきます。第七回目は、観音経について解説していただきました。

（聞き手　編集担当　薄井秀夫）

聞き手 今日は、観音経の功德についてお聞きしたいと思います。

住職 今回、観音経をテーマに選んだのは、現在の社会の状況についてよく語っていると感じたからです。

観音経では、世の中に様々な苦難があることが示され、観音さまを念することで、観音さまが我々をそうした苦難から救つてくださるということが説かれています。その苦難も実際に具体的に書いてあり、それが新型コロナウイルスによって不安が蔓延している今の世の中のことをお語っているかのようです。

聞き手 観音経というのは、どういったお経なのでですか？

住職 観音経は、法華経の觀世音菩薩普門品という章を、ひとつのお経として取り出したものです。観音さまの功德について書かれていて、わかりやすく、親しみ深いので、よく読まれるお経として有名です。

観音さまの「觀」という時は、見るという意味であります。観音さまには、真觀（ものを正しく見る力）、清淨觀（何事にも執着しない）、広大智惠觀（広い深い洞察力）、悲觀（人の悲しみをわかる力）、慈觀（人のために施すことのできる力）という五つの觀の力が備わっています。

昨年四月二十八日、多くのご来賓のご臨席を仰ぎ、晴天の下で「山門落慶式」を執行しており、はや一年が過ぎました。山門周辺の整備が中々進まず、檀信徒の皆様には多大な迷惑をおかけ致しましたが、この度旧山門跡地の舗装が完成し、「知行院 平成の大改修」が完了いたしました。

先ず本年二月より、山門から本堂・書院に続く参道の整備に取り掛かりました。山門から本堂へ参道をつなげるか、書院前の参道に繋げるか諸案ありましたが、山門を潜って正面に本堂が目に入るよう真っすぐ参道を敷き、突き当たつたところから本堂と書院の二手に分かれるように致しました。

三月に入り、参道両側の整地と外壁の取り付け工事に入りました。整地にはアスファルト、コンクリート等を用いる案も上がりましたが、山門の雰囲気につたやわら

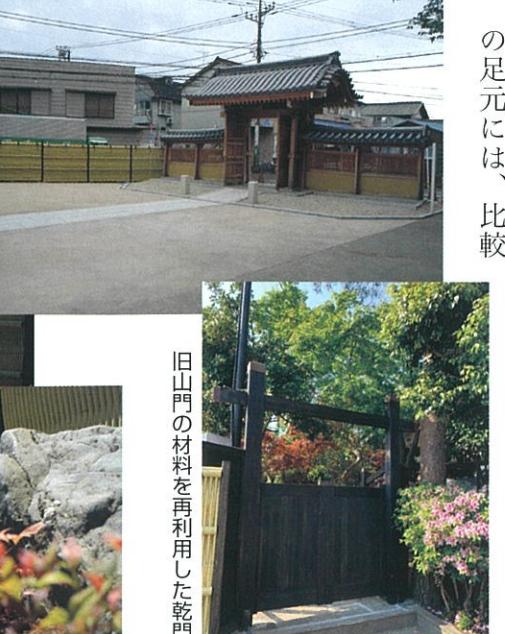


山門から続く参道とその両側の土系舗装

水道道路側の竹垣「大津垣」



竹垣の足下に植えた
お多福南天



かな印象をあたえる為、公園などで多く取り入れられている「土系舗装」を採用し、景観と排水の両面をカバーすることができました。また外壁には、災害時の倒壊の被害軽減を考慮して、竹垣「大津垣」を採用することに致しました。大津垣とは、立て子に割り竹や女竹を使い、編み込んで作った竹垣で、通風性が良く、採光性にも優れています。今回は耐久性を考慮し、人工竹によるものです。また竹垣の道路側の足元には、比較

ると言われています。観音さまは、この五つの力で私たちを救つてくださいます。

この五つの力を持つ観音さまを常に願い、仰ぎたてますようにと観音経には説かれていました。そして私たちがそのような五觀を身につけるため、精進することが大切だと説きます。

聞き手 観音さまを常に願いなさいということを語っています。また貪瞋痴（つまら貪り、怒り、愚かさ）という心の中の難も、観音さまを念佛すれば、無くなっていくというのです。

今新型コロナウイルスをめぐる状況も、見えない敵であるウイルスとの戦いであると同時に、それともう、人の内側にある貪瞋痴との戦いもあります。

例えば、皆が自肅している中で自肅できないことなどは、他人の悲しみをわかる力、すなわち悲觀が足りないのだと思います。

聞き手 なるほど。そうした観音さまの力を身につけるのが大切だということなのですね。

住職 そうですね。観音経には、「念佛觀音之力」と唱えれば、観音さま助けてくれる、と書いてあります。

例えれば、皆が自肅している中で自肅できないことなどは、他人の悲しみをわかる力、すなわち悲觀が足りないのだと思います。

聞き手 なるほど。そうした観音さまの力を身につけるのが大切だということなのですね。

住職 そうですね。観音経には、「念佛觀音之力」と唱えれば、観音さま助けてくれる、と書いてあります。

あるけれど、そこで終わってはいけない。そこに加えて、観音さまを見習つて、日々生活しましようということも大切だと言うことです。

聞き手 私たちは、観音経とどう接すればいいのでしょうか？

住職 まずは、こんなお経があるんだと興味を持っていただけだと思います。

観音経を唱えることもお勧めします。観音経は、比較的短いお経です。前半の長行と後半の世尊偈があります。世尊偈は、詩のようになつていて唱えやすいので、後半だけでもこれを機会に、観音経を読み込んで見るのもいいでしよう。

また、法華経には、五種法師といつて、お経を身につけるための五つの実践方法が説かれています。受持、読経、誦経、解説、書写、つまりお経を持つこと、読むこと、暗記して唱えること、他の人に伝えること、写すことです。

余裕の無い方は、最初の受持から初めてもいいと思います。お経を持つているだけで、人は心の持ちようが変わってきます。それだけでも、日々の生活の中で、貪瞋痴から離れるという心が生まれてきます。観音さまのお徳に近づいていくことができるのです。

例年秋、天台大師のご遺徳を偲ぶ霜月会の一環として実施されており、「東京教区団体参拝旅行」につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大による様々な影響を勘案し、且つ参加される檀信徒の皆様の安心・安全の確保を第一義とした結果、誠に残念ではございますが、今年度の催行は中止となりました。

今年度の団参では、総本山延暦寺様も大遠忌期間中の参拝とあって、様々な特別企画などが準備されておりました。また担当業者であるJTBも例年以上に綿密な下見・調整を以て工程を作成しております。こうした有難い縁を踏まえ、今年度予定していた内容・行程をそのまま次年度に引き継ぎ、改めて次年度団参として実施することとなりました。来年度ご案内の際には多くの檀信徒の皆様のご参加をお待ちしております。